

クラウド化に伴いNetskopeを導入 SWG・RBI・CASBの統合的な運用を実現

導入事例

+

数多くの自社ブランド製品と国内外のセレクトアイテムを扱い、アパレル業界で高い知名度を持つ株式会社ユニテッドアローズ。ヒト(高度に完成されたサービス)、モノ(厳選された商品)、ウツワ(心地よさを追求した施設・空間・環境)を通して、「お客様満足」の提供にこだわっています。そのための一環としてDXを推進する同社では、オンプレからクラウドへの移行をきっかけにNetskopeを導入しました。今回は導入の経緯と効果、今後の展望についてお伺いします。



リプレースを機にオンプレミスからクラウドへ CASB を視野に入れた製品を検討

株式会社ユニテッドアローズは、自社ブランドの企画・販売や、世界中からセレクトしたファッションアイテムの販売を手がけるアパレル企業です。より良い顧客体験の実現を目指す同社では、DX推進センターの設立、中期経営計画の主要戦略として「UA DIGITAL戦略」を掲げるなど、全社のデジタル化に向けたさまざまな取り組みを実施。2024年2月には「デジタルガバナンス・コード」の基本的事項に対応していることと、DX推進の準備が整っていることが評価され、経済産業省が定める「DX認定事業者」に認定されています。

一連のDX推進において、中心となっているのは「ITソリューション本部」です。本部長 執行役員 CIO の鈴木裕司氏はこう語ります。「会社の経営課題や経営戦略に合わせて「IT」としてはこういうことをすべき」といった方向性を考えるのが本部の役割です。それに基づいて、アプリケーション領域を担当する部署とインフラ領域を担当する部署が、それぞれ具体的なプロジェクトを進めていきます」。

インフラ領域を担うITサービスプラットフォーム部の部長、佐藤弘明氏によると、Netskopeを導入した背景にはいくつかの要因があったといいます。「ひとつには、それまでオンプレミスで運用していたセキュリティ製品、具体的にはプロキシフィルタリング機能や無害化のソリューションなどの保守期限が迫っていました。加えて当社では、近年の働き方改革やコロナ禍の前よりクラウドへの移行を考えていたという事情もあります」。

オンプレミスからクラウドへとネットワークを移行するにあたり、同社ではそれまで使用していたSWGとRBIのリプレースに加え、CASBの追加と、それらの統合運用を目指すことになりました。



UNITED ARROWS LTD.

会社概要

業界	地域	設立	従業員数
小売業	日本	1989	3,600



株式会社ユニテッドアローズ

<https://www.united-arrows.co.jp/>

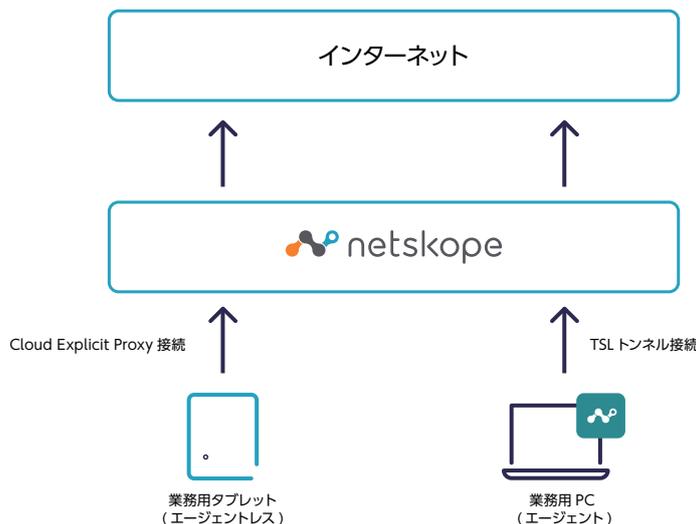


株式会社ユニテッドアローズ
執行役員 CIO
鈴木 裕司 氏



株式会社ユニテッドアローズ
ITサービスプラットフォーム部 部長
佐藤 弘明 氏

システム構成図



高い拡張性と統一プラットフォームでの運用 サポート体制の充実が導入の決め手に

Netskope導入の検討をはじめたのは2022年です。4月から新しい会計年度が始まるのに合わせ、予算化や経営層への説明を進めていきました。「投資額が大きくなるため、社長をはじめとする経営層には現状のリスクと、セキュリティを強化する必要性をしっかりと説明しました」と佐藤氏は説明します。その後、経営会議での合意を経て、同年5月に導入に向けたキックオフが開始されました。

ITサービスプラットフォーム部では複数のセキュリティ製品を検討しましたが、以下の3つの点からNetskopeに白羽の矢が立ったといいます。

- ・SWG、RBIのリプレイスだけでなく、CASBの追加など高い拡張性があること
- ・機能ごとに別々にログインする必要がなく管理コンソールが統合されており、統一したポリシー設定が可能で、管理・運用がし易いこと
- ・システムを構築して終わりではなく、運用面のサポート体制まで整っていること

これらすべての要件について、満足できるレベルで機能を兼ね備えていたのがNetskope でした。

クラウド移行後も高度なセキュリティ水準を維持 SOC のアウトソースも可能に

Netskopeの導入から約2年。全社で2,000台近いWindows端末にエージェントを入れているものの、これまで大きなトラブルやユーザーからのクレームは出ていません。

「全社への導入に先立ち、まずはIT部門でNetskopeを先行リリースして検証しました。その時点では設定の不備による小さなトラブルをいくつか経験しましたが、『もう大丈夫』という段階で全社に展開したため、スムーズな導入を実現できたのだと思います」(鈴木氏)

導入後の効果については、佐藤氏はこのように語ります。

「定性効果になりますが、まずは既存の製品のリプレイスという部分で、クラウドに移行しても従来のセキュリティ要件をしっかりと満たすことができている。SWGだけでなく、CASBを併用することで、クラウドサービスの利用を可視化する材料が揃ったことで、リスクのある動きの検知やそれに基づく隔離やブロックが可能になり、SOCの運用をアウトソースできるようになりました」。

より良い顧客体験に向けてDX を加速 Netskope の機能をさらに引き出していく

クラウドへの移行とNetskopeの導入を果たしたユナイテッドアローズ。しかし同社のDX戦略にはまだ続きがあり、現在はサプライチェーンの最適化を目的とした商品管理基幹システムの刷新と、商品調達のデジタル化への体制整備が進行中です。

また「店舗のデジタル化もさらに進めていきたい」と鈴木氏は語ります。「たとえば裾直しが終わった際にお客様に電話連絡するのですが、タイミングによってはお客様が電話に出られないこともあります。より良いお客様体験のために、お客様の都合に合わせてデジタルでお知らせするシステムが必要です」

一方、佐藤氏はセキュリティ面の強化にも注目しています。「すべてはお客様のためにある、という基本姿勢のもと、お客様の情報はしっかりと守らなければいけません。情報を保護し、リスクを適正に管理し、サービス、業務の効率化や利便性をたかめること、安心・安全に、便利に効率良く業務が行えるよう、ITを最大限に活用するためのセキュリティをさらに強化していきます」

「製品を入れて終わりではない」と強調する両氏。Netskopeの機能をさらに引き出し活用していくため、社員教育に取り組むとともに、Netskopeのサポート体制も活用していきたいと考えています。



SASEのグローバルリーダーであるネットスコープは、ゼロトラストを原則としてAI/MLを活用したデータ保護を行っています。サイバー脅威から企業を守り、セキュリティとパフォーマンスを妥協することなく両立し最適化に導きます。1つのプラットフォームで新たなエッジネットワークの構築、リスクの低減、そしてあらゆるクラウド、ウェブ、アプリケーション通信において卓越した可視性を提供します。詳しくはnetskope.com/jpをご覧ください。